

参加番号007

(1)課題文タイトル 「ビジネスホテルとフィットネスクラブからなる複合施設」

(2)設計主旨

本計画では駅至近という立地条件を活かすと共に通行の安全面を考慮し、エントランスを1・2階の2ヶ所に計画した。1・2階のエントランスホールを介し、円滑に結ぶ動線計画とすると共にビジネスホテル部門とフィットネスクラブ部門を明快にゾーニングし、来館者が利用し易いものとした。また、利便性に配慮しエスカレータを設ける。オープンカフェを賑わいのある空中広場に面して設け、広場と繋がりを持つアメニティ空間を創造する計画とした。

(3)今回のコンペについての感想

これまでの国語力講座では、出す度に「鬱りすぎ！5.5hで解けないヨ〜」の評を頂いており、なかなかシンプルにする事ができませんでした。今年から6.5hなので、6.5hならば解答可能となるよう条件をなるべく簡単にしたつもりです。いろんなものを削ぎ落としていくうちに結果的には本試験の内容とほぼ同じようなものになってしまいました。昨年、本試験前に国語力をやっていたら…やはり同じような内容になったかもしれません。

オリジナリティに欠ける為、コンペ案として面白くないかもしれませんが、自分としては施設の骨格を集中して考え（動線とゾーニングを重視）作成した案なので、「計画の基本」をより理解できたのではないかな？と感じた次第です。パターン出しはかなりやりましたが、残念ながら自分で別案をまとめ検証する余裕はありませんでした。

よって難易度は？不明です。国語力では「解答レベル」という意識でツメが甘いまま作成していますが、コンペということで国語力以上に「模範解答」としての裏付けが必要で、かなりプレッシャーでした。イメージしたものをまとめる難しさを学びました。

提出後にまた又々を見つけてしまいました… _;A

近年の標準解答例では、7.5mというスパン計画が見受けられます。課題では、ほぼ100%7.5mスパンで計画しているので、そうでないものを目指しました。今回は恐らく本試験では採用しない6.5mスパンで計画してみました。敷地はそのスパン割りから逆算したもので設定しました。6.5mでの細部の寸法を確認しながら作図はいつもよりリアリティがあるような気持ちになりました。しかし試験では、その辺りの割り切りを身につけないといけないのでしょね…

今回の案は基本的な動線計画を特に意識したもので、現実的な採算性は度外視しています。宿泊室は少なめですが、車椅子対応のツインルームを設け、差別化を図っています。施設見学で聞いたお話では、車椅子対応の広めの部屋は、車いす利用者のみならず、年配のご夫婦や子連れファミリーなどに人気が高く、稼働率は高いそうです。

道路を横断する歩道橋については道路からの有効高さが4.5m以上必要であり、ペデスタル高さを下げるのは難しく、H20年本試験の6mは適切だった！エスカレーターはペデ側に依存しても良かったのですが、難易度が極端に低くなりそうなので採用する事にしました。初めから屋外の設定だったのですが、中に入れてみたり…結局屋外にしました。自分で作る案なので、さぞ理想的な空間ができるかと取り組んでみましたが、あまりスッキリした計画とはなりませんでした。

エスカのせいですね。

出題者の心理を疑似体験できた事はとっても貴重な体験となりました。自主勉で打ち合わせた内容とかなり違うプランになってしまいましたが、結果的に個人提出式にして良かったと思います。

苦労した分達成感というより、何かある意味吹っ切れたものがあったような気がします。

7月の課題発表があったら悔いを残さないよう「国語力」に励みたいと思います。

アドバイス頂いた東京自主勉の皆さんありがとうございました。参加して良かったです！

企画していただいた ペンギンさん、ura410の皆様、本当にありがとうございました。

設計主旨<解答例>に盛り込めなかった内容を補足します。

記述解答例

図面に計画・構造・設備の記述がない為記述分は別紙添付とします。

設計主旨が200字ということでしたので、一部内容前記のものと重複するかと思いますが、出題者側の作成主旨と受験生側の表現とちょっとニュアンスを変えております。

建築

配置計画：1階メインエントランスへのアプローチは、西側道路との空きを確保した。ビジネスホテル宿泊室は隣地オフィスからの離隔距離を考慮し、広場側及び西側道路に面して基準階を計画した。交流・居憩いの場となる2階カフェは、南側広場との一体的な繋がりを生むよう、屋外テラスを広場に面して設けた。タワーパーキングは、遠方からの利用者にもわかり易いよう、また東側道路向かいの児童公園に配慮し幹線道路(西側道路)からアプローチするよう配置した。

アプローチ計画：1Fエントランスは、主に車利用者と自転車利用者に配慮し、駅側(西側道路)に面した位置に設けた。2Fエントランスは徒歩利用者がペDESTリアンデッキよりアプローチし易い位置に設けた。駐輪場は横断歩道からのアプローチを考え配置している。尚、ペDESTリアンデッキ下のスペースを利用することで屋根の変わりとし、まちなみの景観に配慮している。

エスカレーターは駅・広場との利便性を考慮し外部空間とした。

内部計画：1Fフィットネスクラブ/受付及び2Fビジネスホテル/フロントを交差点側に設け、利用者にわかり易い計画とした。西側よりアプローチする1Fエントランスホールと2F南側エントランスホールを円滑に結ぶ動線計画とし、それぞれのエントランスホールを介し、明快なゾーニング計画としている。フィットネスクラブのスタジオ及びプールはその躍動感が伝わるよう、ペDESTリアンデッキ・児童公園側から中の様子が見える位置に配した。カフェはビジネスホテルの朝食サービス等に利用し、フィットネスクラブ利用者の仲間同士の交流等利用者が出入りし易いものとなるよう計画した。セキュリティに関して、守衛室はホテル部門の出入りチェック・夜間対応、また、パーキングの誘導と監視を兼ねタワーパーキングに近い位置に常駐するものとして計画した。ホテル部門利用者は2階フロントを介して宿泊室へ上がる。ハートビル対応として車椅子用駐車場は1Fエントランス至近とし、乗降スペースを確保する。(複数台の来館の場合はホテル側でタワー内に格納するサービスとする。)高齢者・障害者等の利用に配慮建物全体をユニバーサルデザインとする。

建築 環境配慮計画

ガラスはLow-eガラスを採用し空調負荷を低減する。自然エネルギーを利用し給湯用に太陽光集熱パネルを採用。また、植栽散水用等として中水利用を検討する。屋上・壁面(フェンス等)を積極的に緑化する。Co2排出削減の為、外構には保水性舗装ブロックを採用する。空調機械(単一ダクト)では変風量制御により設備システムの高効率化を図る。

構造

安全性・経済性・居住性を考慮し、RC造・ラーメン構造を採用。一部大空間にプレストレスト梁を採用(プール室、マシンルーム)スパンは7×6.5mで計画した。

設備計画

・EVコアは効率の良い機能をとする為なるべく近くなるようにまとめ、管理階段との位置関係を考慮した。EVの振動・騒音に配慮し宿泊室とは距離を設けた。

・空調計画はフィットネスクラブ部門を単一ダクト方式としゾーニング別に変風量制御を行うものとする。ビジネスホテル部門、及び共用部門は室毎に温度調整の効く個別マルチユニット方式を採用する。室外機は管理階段付近に設置する為、断面図では省略している

・電気機械室は、プール用浄化槽を設置する為プール室脇に、またビジネスホテルにEPSを通す為ビジネスホテルのタテコア直下に配置した。